農作業 テクニカル ダイアリー

秋冬ネギ

成東経済センター　営農指導担当者　大場 湧人

令和7年産 夏から秋の振り返り

令和6年産と比較すると、生育はおおむね順調でした。しかし梅雨明けが早かったため、夏場は高温・乾燥の状態が長く続きました。害虫については、前年に続きシロイチモジヨトウが大量発生したほか、ネダニやセンチュウによる被害も見られました。さらに、10月末から11月初旬にかけての風雨により、生育の遅れが発生しました。

今後の管理と病害虫対策

気温の低下に伴い害虫被害は徐々に減少しますが、これからの時期は葉枯病（黄色斑紋病斑）、さび病、べと病などの病害発生が懸念されます。

●葉枯病（黄色斑紋病斑）

15～20℃で発生しやすく、春から秋まで長期間発病する病害です。初期には先枯れ病斑（写真❶）や斑点病斑（写真❷）が現れ、気温の低下や冷え込みが強まると、黄色斑紋病斑（写真❸）が発生します。出荷物の品質に影響するため、早めに防除してまん延を防ぎましょう。また、土壌pHが低い場合や窒素施肥が多い場合に発生が増える傾向があります。

●さび病

気温17～23℃で多湿になると発生しやすい病害です。発病の約3週間前にはすでに感染が進んでいるため、発生しやすい天候が予測される時期には、早めの予防的な防除が重要です。

●べと病

気温15～20℃で多湿条件のときに発生しやすく、特に降雨や霧が出た後に被害が拡大します。降雨・霧が多い時期は予防を徹底し、発生を確認した場合はすぐに防除を行いましょう。葉枯病と同様、窒素過多は発生を助長するため注意が必要です。

病害の拡大を防ぐためには、発病株や残渣を圃場に残さず、適切に処理しましょう。また、土壌診断を活用して施肥量を適正に管理することも重要です。農薬を使用する際は、ラベルに記載された分類コード（FRACコード）を確認し、薬剤抵抗性を防ぐため同じコードの薬剤を続けて使用しないよう注意してください。

写真❸　黄色斑紋病斑 ※

写真❷　斑点病斑 ※

写真❶　先枯れ病斑 ※

※ルーラル電子図書館より引用

表❶　葉枯病、さび病、べと病に登録のある農薬

葉枯病	さび病	べと病	薬剤名	FRACコード	希釈倍率	使用時期	使用回数
○	○		アフェットフロアブル	7	2000倍	収穫前日まで	2回以内
○	○	○	アミスター 20フロアブル	11	2000倍	収穫3日前まで	4回以内
		○	オロンディスウルトラSC	40、49	2000倍	収穫7日前まで	2回以内
○	○		カナメフロアブル	7	4000倍	収穫前日まで	4回以内
○	○	○	テーク水和剤	3、M3	600倍	収穫14日前まで	3回以内
○	○		パレード20フロアブル	7	2000倍	収穫前日まで	3回以内
○		○	プロポーズ顆粒水和剤	40、M5	1000倍	収穫14日前まで	3回以内
○	○	○	メジャーフロアブル	11	2000倍	収穫前日まで	3回以内

バレイショ

山武経済センター　営農指導員　古川 聡

種芋の管理について

種芋を受け取ったら、まず現物を確認しましょう。腐敗芋（腐敗・軟腐病・黒あざ病）や傷（割れ）があるものは除去してください。

催芽は散光に当てて行います。催芽を適切に行うことで、生育や品質のばらつきの軽減、収量の安定につながります。ビニールハウスで浴光催芽を行う場合は、温度が23℃以上にならないようにし、直射日光が当たらないよう遮光ネットを展張するなどの対策が必要です。また、夜間の凍結にも十分注意してください。

種芋の切り方

一般的に種芋は大きいほど初期生育が良く、茎数が増えて芋数も多くなる傾向がありますが、種芋重量が60㌘以上になると収量に大きな差はなくなります。種芋を準備する際は、10㌃当たりに植え付ける種芋量を140～160㌔、切断時の1片の大きさは30～82㌘を目安としましょう（表❷参照）。

圃場の準備

適切な土壌pH（5・5～6・0）を維持し、pHが高い圃場（6・5以上）での作付けは極力避けましょう。基準より高いpHで作付けを行う場合は、そうか病の発生を助長する恐れがあるため、石灰質肥料の施用は控えてください。ただし、土壌改良剤「畑のカルシウム」（写真❹）は土壌pHを上昇させずカルシウム分を補給できる資材です。pHが高く、乾燥などのストレスがある圃場で、土壌中のカルシウム欠乏対策に効果が期待でき、おすすめです。

写真❹　畑のカルシウム

病害対策

●疫病

疫病は糸状菌による病害で、葉の裏側から感染します。曇天・長雨・高湿度、水はけの悪い圃場などで特に発生しやすい傾向があります。発生すると進行が非常に早く、感染力も強いため、プロポーズ顆粒水和剤やレーバスフロアブルなどの薬剤を散布し、早期に防除しましょう（表❸参照）。

表❷　種芋の規格（サイズ）別の切り方と1片の重さ

規格（サイズ）	切り方	種いも1片の重さ（目安）
3L（260～330g）	4つ切り	65～82g
2L（190～260g）	4つ切り	48～65g
L（120～190g）	3つ切り	40～63g
M（60～120g）	2つ切り	30～60g
S（40～60g）	切らない（全芋）	40～60g
2S（30～40g）	切らない（全芋）	30～40g

※各切片に正常な芽が2つ以上含まれるよう切断する。
S・2Sは切断せず全芋で使用する。

表❸　疫病に登録がある薬剤例

薬剤名	希釈倍率	使用時期	使用回数
プロポーズ顆粒水和剤	750～1000倍	収穫7日前まで	5回以内
レーバスフロアブル	1500～2000倍	収穫7日前まで	2回以内

営農なんでも相談室

皆さまの営農に関するお悩みを、JAの総合事業の力で解決！
栽培管理、コスト削減、規模拡大、求人・雇用のことなど、お気軽にご相談ください。

JA山武郡市 営農なんでも相談室
（本所 営農部内）
0120-972-860